

こども芸術学科カリキュラムツリー 2020年度入学生用

感性豊かな保育者・対人援助職で活躍できる人材の育成

進路	保育所	こども園	幼稚園	児童館	福祉施設	こども関連企業 ホスピタリティ産業	大学院
	保育士	保育教諭	幼稚園教諭	児童厚生員 放課後児童支援員	ケアワーカー	営業職・デザイナー	教育学・芸術学・福祉学・心理学
DP	人間力				創造力		
	知識／思考力			行動力／倫理観	発想力／構想力／表現力		
4	卒業研究・制作 4単位 卒業研究・制作・展覧会企画						
	保育・教職実践演習(幼稚園) 2単位 保育者としての能力、実践力を養う						
	子育て支援 2単位 子育て支援内容の方法及び技術						
	教育実習Ⅱ 2単位 幼稚園での保育の実際と子ども理解						
3	教育実習指導 2単位 幼稚園実習の事前事後指導						
	教育実習Ⅰ 2単位 幼稚園での保育の実際と子ども理解						
	こども家庭支援論 2単位 子育て家庭に対する支援の意義・目的	教職概論 2単位 教員の役割や資質についての理解を深める	実習指導・施設Ⅱ 2単位 施設実習に向けた事前学習	施設実習Ⅱ 2単位 児童福祉施設における実習	こども芸術演習Ⅱ 4単位 子どもの「学び」と「遊び」をデザインする		
	こどもと生活 2単位 生活科の背景と子どもの特性について	教育制度論(幼稚園) 2単位 幼稚園制度に関する歴史と教育について	教育方法の理論と実践 2単位 教育の方法・技術に関する基礎的理解	こども芸術演習Ⅰ 4単位 子どもの「学び」と「遊び」をデザインする			
2	社会福祉 2単位 保育士になるために必要な社会福祉論	教育相談 2単位 教育相談の基本的知識、技術を学ぶ	実習指導・保育所Ⅰ 2単位 保育所実習Ⅰの事前事後指導	保育所実習Ⅰ 2単位 保育の実際と子ども理解	保育内容Ⅵ(表現Ⅱ) 2単位 身体表現・子どもの歌唱指導法		
	子どもの健康と安全 2単位 子どもの健康と安全について	乳児保育Ⅱ 2単位 乳児の発育・発達と関わり	実習指導・施設Ⅰ 2単位 施設実習に向けた事前学習	施設実習Ⅰ 2単位 居住型児童福祉施設等での実習	素材造形Ⅲ 2単位 造形活動の構想と指導法Ⅱ	素材造形Ⅳ 2単位 地域環境と素材	
	特別支援教育概論 2単位 特別な支援を要する幼児児童の理解	社会的養護Ⅱ 2単位 社会的養護の基礎的理解	保育内容総論 2単位 保育内容について総合的に学ぶ	音楽Ⅳ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	保育内容Ⅴ(表現Ⅰ) 2単位 感じる・考える・表現する		
	乳児保育Ⅰ 2単位 乳児保育の意義・目的	子どもの保健 2単位 子どもの発育・発達と理解	子どもの食と栄養 2単位 小児栄養の意義と基礎的理解	保育インターンシップ 2単位 職業体験	音楽Ⅲ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	素材造形Ⅰ 2単位 造形活動の構想と指導法Ⅰ	素材造形Ⅱ 2単位 自然と素材
1	カリキュラム論 2単位 保育の計画及び評価	社会的養護Ⅰ 2単位 社会的養護の歴史的経過と最前線	保育内容Ⅲ(環境) 2単位 子どもの知的好奇心・科学の芽を育てる環境	保育インターンシップ 2単位 職業体験	音楽Ⅲ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	こどもとあそび 2単位 子どもの遊び 実践と指導法	
	こども家庭福祉 2単位 子ども家庭福祉の歴史的経過と最前線	保育原理 2単位 保育の本質を捉え、保育観を構築する	保育内容Ⅳ(ことば) 2単位 こどものことばと育む	PC技法演習Ⅱ 1単位 コンピュータの運用と表現	音楽Ⅱ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得		
	教育心理学 2単位 教育と子どもの心理を学ぶ	保育内容Ⅰ(健康) 2単位 乳幼児の心身の健康について学ぶ	保育内容Ⅱ(人間関係) 2単位 乳幼児期における人間関係について学ぶ	PC技法演習Ⅰ 1単位 コンピュータの運用と表現	幼児体育 2単位 身体活動	音楽Ⅰ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	心と身体の健康Ⅱ 1単位
	国語 2単位 正しい日本語を使い方を学ぶ	保育内容Ⅰ(健康) 2単位 乳幼児の心身の健康について学ぶ	保育内容Ⅱ(人間関係) 2単位 乳幼児期における人間関係について学ぶ	幼児体育 2単位 身体活動	音楽Ⅰ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	音楽Ⅰ 1単位 保育者に必要な音楽的基礎技術の修得	心と身体の健康Ⅰ 1単位

- 必修(講)
- 選必(講)
- 選択(講)
- 必修(演)
- 選必(演)
- 選択(演)

- キャリア科目  
2単位
- キャリア科目  
2単位
- 英会話Ⅰ  
2単位
- 日本国憲法  
2単位

- キャリアインターンシップⅢ  
2単位
- キャリアインターンシップⅡ  
1単位

- キャリアインターンシップⅠ  
1単位

- キャリア科目  
2単位
- 美術史(学芸員)  
2単位
- 体育実技Ⅰ  
2単位
- 心と身体の健康Ⅱ  
1単位
- 心と身体の健康Ⅰ  
1単位

【1-c】カリキュラムマップ (こども芸術学科) 2020年度

芸術学部 ディプロマ・ポリシー			
人間力 自立したひとりの人間として 生きるための基盤の力	知識	人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる	
	思考力	正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる	
	行動力	自らを律しながら、設定した課題に粘り強く継続的に取り組むことができる	
創造力 芸術の力を 社会のために活かす	倫理観	自らの良心に従い、社会のために芸術・デザイン・力を活かすことができる	
	発想力	豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめることができる	
	構想力	概念・イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる	
表現力	テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる		

◎ DPを達成するために特に重要  
○ DPを達成するために重要  
△ DPを達成するために望ましい

科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	知識	思考力	行動力	倫理観	発想力	構想力	表現力
発達心理学	選択	1・2・3・4	講義	2	前期	◎	○		△			
教育心理学	必修	1・2・3・4	演習	2	後期	◎	○		△			
保育原理	必修	1・2・3・4	講義	2	後期	◎	○		△			
初等教育原理	必修	1・2・3・4	講義	2	前期	◎	○		△			
音楽I	必修	1・2・3・4	演習	1	前期	○						◎
音楽II	選択	1・2・3・4	演習	1	後期	○						◎
幼児体育	選択	1・2・3・4	演習	2	前期	○	○	◎	△	△		△
マテリアルベーシックI	必修	1・2・3・4	演習	2	前期		○	○		◎		
マテリアルベーシックII	必修	1・2・3・4	演習	2	前期	○				◎		
マテリアルベーシックIII	選択	1・2・3・4	演習	2	後期	○		○		○	◎	
マテリアルベーシックIV	選択	1・2・3・4	演習	2	後期		○				◎	○
PC技法演習I	選択	1・2・3・4	演習	1	前期	◎	○	○				
PC技法演習II	選択	1・2・3・4	演習	1	後期	○	○	◎	○			
保育内容I(健康)	必修	1・2・3・4	演習	2	前期	◎	○	△		△		
保育内容II(人間関係)	必修	1・2・3・4	演習	2	前期	○	◎		△	△		
保育内容III(ことば)	必修	1・2・3・4	演習	2	後期	◎	○		△			△
幼児理解	必修	1・2・3・4	演習	2	前期	◎	○	○	△			△
国語	選択	1・2・3・4	講義	2	前期	◎	○					△
こども家庭福祉	選択	1・2・3・4	講義	2	後期	◎	○		△			
専門英語	選択	1・2・3・4	演習	2	前期	△		○				◎
こどもの保健	選択	2・3・4	講義	2	前期	◎	○		△			
カリキュラム論	必修	2・3・4	講義	2	前期	◎	○		△			

テーマ	授業概要	到達目標
発達心理学の基礎知識を学ぶ	ヒトが誕生してからの個人としての発達のプロセスや、周囲の環境との相互作用によって獲得していく能力について学習する。また、乳幼児期の発達を支える保育者としての専門性に結びつく知識も修得する。	乳幼児の発達を様々な角度から概観する。各種の発達理論や各時期の特徴といった、発達心理学の基本的な考え方を理解できるようにする。
教育と子どもの心理を学ぶ	心理学の視点から、子どもの心身の発達及び学習の過程に関する代表的な理論や研究成果について、教育・保育実践との関連を中心に論じる。その上で、主体的な学習を支える上で教師・保育者に求められる知見と、それを踏まえた教育・保育実践のあり方について考察する。	1. 教育・保育における様々な学習の形態や概念及びその過程に関する基礎的な理論を理解する。 2. 子どもの心身の発達を踏まえ、教育・保育における主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について理解する。 3. 子どもの心身の発達を踏まえ、教育・保育における主体的な学習活動を支える支援について理解する。
保育の本質を捉え、保育観を構築する	乳幼児がどのような存在であり、保育とは何かを考えるということは人間や文化、社会への理解を深めるということでもある。思想や歴史等を手がかりに、現代社会における保育・子育ての現状と課題に向き合い、乳幼児の保育・教育に人間存在(人間らしさとは何か)の原点を見出す。これらを通して、子ども親・保育観の意識的な構築を目指す。	思想・歴史・乳幼児の存在論・現代社会における諸課題等の観点から保育の原理について考えることができる。 保育の本質をとらえ、具体的なかかわりの基本を身につけることができる。
教育の基本概念を理解する	身近な教育現象に興味・関心をもち、これまでの教育の歴史や思想のエッセンスを学ぶことを通して、教育についての確かな概念を獲得することを目的とする。人間はどのような発達過程を経て人間となるのか、教育はなぜ必要なのか、学校の誕生と学校制度の成り立ち、代表的な教育思想の心臓、などが授業の内容となる。その中から教育を深見つめる眼や思考力を鍛えていくことこそ、本授業の最も望むところである。	(1) 教育学の諸概念並びに教育の本質を理解している。 (2) 身近な教育現象のなかで課題をみつけ、それを深く広く考えるための思考力を獲得する。
保育者に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育現場での音楽的表現活動のピアノ伴奏ができる。 こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。
保育者に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。 こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。
身体活動	「走る・跳ぶ・投げる」基本的な動きを基に、子供の身体機能や体力への影響を考え、運動の楽しさを学ぶ。	子供の身体機能や体力への影響を考えた上で、運動やレクリエーションゲームの導入・展開・実践ができることを目指す。
マテリアルと表現	身の回りの自然物、人工物を観察し、気づきから問いかけ、発見から発想、構想、そして表現までのプロセスを学び、保育現場で実際に使える造形素材についてを習得する。五感を使いながら、素材の特徴と道具の正しい使用方法を学ぶ。成果物を通して、作者の気持ちが対象(幼児)に伝わるかを体験する。	身近な素材を見直し、保育、幼児教育の現場に役立つ造形活動を考えられるようになる。 幼児教育の現場に必要な基本的な道具・素材の特徴を理解し、運用できるようにする。 造形活動の環境を整える配慮ができ、こどもと安全に楽しく造形活動の実践ができるようになる。
色彩の理論と配色について	あらゆる表現活動において必要な「色」と「形」いう造形要素を、理論と実践の両面から学び身につけていく。また、絵の具やクレヨン、パステルなど画材に対する知識と経験も深め、表現したい内容を実現していく力を養う。	・ 混色原理や色彩対比、配色方法を学び実践できるようになる。 ・ 形に対する理解を深める。 ・ 各画材の特性を理解し使い分けができる。 ・ 制作に集中して取り組み、完成させることができる。
マテリアルの特性と運用	見て、触り、匂いを嗅ぎ、聞き、...と五感を開いて身の回りにあるマテリアルの持つ素質・特徴を調べ理解する。	身の回りにあるものを素材として工夫し使いながら、ものづくりができるようになる。 素材の特徴を生かした使い方ができるようになる。
マテリアルの研究と表現への展開	より幅広い技法・素材に触れながら発想を豊かにし、自身でテーマを見つけ、主体性を持って制作を深めていく。また、作品制作を通して自身の持っている資質に気づき、他者や社会との関係性の中で自分なりの価値観、世界観を構築していく。	・ 素材の特性を理解することができる。 ・ 素材や技法から発想を広げ、自身のテーマを探っていくことができる。 ・ 他者に伝わる表現を意識して画材や素材を選択し、造形していくことができる。
コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	アプリケーションの使用法を身に付けるにとどまらず、主体的に発表しアイデアや情報を共有することの楽しさを発見し、表現におけるコンピュータの適切な利用法への理解を深める。
コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	アプリケーションの使用法を身に付けるにとどまらず、主体的に発表しアイデアや情報を共有することの楽しさを発見し、表現におけるコンピュータの適切な利用法への理解を深める。
乳幼児の心身の健康について学ぶ	遊びを通して育む幼児の心身の成長や発達の様相、健康な生活リズム、基本的な生活習慣の形成、食育、清潔や衛生習慣、怪我や安全に対する危険回避能力、自立に向かう心身の発達を援助するための理論や方法について、幼児自身が身につけることのできる基本的な事項を学ぶ。さらに、保育の場での実践を視野に、具体的な指導法や教授法として教材研究や指導案を作成し、模擬授業を行う。	幼児期の心身の発達、運動の発達、基本的な生活習慣の習得について理解出来るようになる。また、現代の幼児を取り巻く社会状況や、保育のあり方について、保育者になるという自覚を持って考えられるようになる。
乳幼児期における人間関係について学ぶ	「幼児期教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、幼児期における人との関わりについて理解を深める。また社会性を育むために、どのように保育が計画されているのかについても学び、幼児の発達に即した具体的な保育場面を想定した模擬保育も体験する。	・ 幼児が、他の人々と親しめ、支えあって生活し、自立心を育み、人とかかわる力の礎を養うことの意味について考える。 ・ 自身の人としての在り方を整理した上で、期待される教師像について理解を深める。 ・ 幼児と関わる仕事における適切な援助のあり方について学び、幼児の発達に即して主体的、対話的で深い学びが実現する課程を踏まえ、具体的な保育場面を想定して模擬保育を行う。
こどものことばを育む	保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された保育内容「言葉」についての授業である。幼児がことばを獲得し、豊かな表現力を身につけていくためには、保育者自身の言語体験が重要になる。この授業では、乳幼児がことばを獲得していく発達の道筋を理解したうえで、言葉の発達を支援していくために必要な種々の児童文化財(絵本、紙芝居など)で用いられている言葉の表現技術や方法について学ぶ。	幼稚園教育要領に示された幼稚園の基本と他の領域との関連性を踏まえたうえで、 1 「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2 幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育の場面で幼児の豊かな言葉の体験を支援する保育者の役割を理解することを目指す。
幼児の姿を知る	幼児の姿には様々なメッセージが込められている。幼児の言葉や行動からいかに幼児の理解に努めるかが、保育者のあるべき姿といえる。本授業では、幼児の姿をどのように理解していくかを主眼に据え、幼児教育の現場でみられる幼児を取り巻く諸問題とその解決に向けての方法を考える。	幼児教育の現場では幼児の様々な姿に接するが、時には「問題」として表出されることもある。保育者はそれらの幼児の姿の意味をひもとく。幼児理解に努める姿勢が求められる。幼児の行動や幼児を取り巻く環境の意味、見方、かかわり方を学ぶ。また、保護者からの相談への対応や他機関との連携についても理解し、保育者の社会的役割について学ぶ。
正しい日本語を使い方を学ぶ	誤りやすい日本語、敬語などの国語常識や、初歩的な古典を学ぶ。また、採用試験対策として、小論文の書き方を勉強したり、話す能力も高めるためにディベートを行うなど、実践力を身につけることに力点を置く。	誤りやすく、あいまいな日本語・敬語・漢字を正しく使えるようになること。 正しい日本語・敬語が使えて、大人とのコミュニケーション(話し言葉と書き言葉)ができるようになること。
子ども家庭福祉の歴史的経緯と最前線	子ども家庭福祉の意義、制度や実施体系、歴史的変遷について理解する。子どもの権利擁護について理解を深め、児童虐待や子どもの貧困問題等、今日の子ども家庭福祉を取り巻く現状を知り、今後の動向と展望について学ぶ。	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの権利擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
多文化理解と英語力	外国にルーツを持つ子どもたちへの理解、多文化理解を深めるとともに、保育現場で活用できる語学力を修得する。	保育士自身が英語での保育に自信を持ち、部分保育を楽しめるようになる。
子どもの発育・発達を理解	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体的な発育・発達と健康・保健について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、子どもの疾病、感染症予防等について、他職種間の連携・協働の下の適切な対応について理解する。	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下の適切な対応について理解する。
保育の計画及び評価	幼稚園、幼保連携型認定こども園における計画や評価の意義、幼児教育の質向上と実践の全体構造(計画、実践、省察・評価、改善)について理解し、指導計画の立案と展開について、子ども観から教育の目的・方法と計画の一貫性に留意しながら、実際に計画作成、相互分析・検討を行い、指導計画や指導案作成の留意事項への気づきとともに、臨機応変な展開の可能性を学び、実践力向上へつなげる。	1. 教育課程や保育課程が幼児の発達、成長にたいして持つ意義を理解する。 2. 教育課程、全体的な計画、指導計画を編成する際の基礎となる考え方を理解する。 3. 具体的な指導案作成とその検討を行うことを通して、保育者として必要な実践力を高める。

科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	知識	思考力	行動力	倫理観	発想力	構想力	表現力	テーマ	授業概要	到達目標
社会的養護 I	選択	2・3・4	講義	2	前期	◎	○		△				社会的養護の歴史的経緯と最前線	社会的養護の意義、制度や実施体系、歴史的変遷について理解する。社会的養護の対象理解を深め、具体的な支援形態について学ぶ。子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護における保育士の専門性、基本原理や倫理的責務について学ぶ。	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護の基本的な内容について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。
社会的養護 II	選択	2・3・4	演習	2	後期	◎	○		△				社会的養護の基礎的理解	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。施設養護及び家庭養護の実態について理解する。計画、記録、相談援助の方法・技術、自己評価について理解する。子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実態について理解する。 3. 社会的養護における計画、記録、自己評価の実態について理解する。 4. 社会的養護に関する相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。
特別支援教育概論	必修	2・3・4	演習	2	後期	◎	○		△				特別な支援を必要とする幼児・児童の理解	発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実態・達成感をもたずながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。また、個別的教育のニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な支援方法を理解する。	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童に対する教育課程や支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別的教育のニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
音楽III	選択	2・3・4	演習	1	前期	○				○	◎		保育者に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。
音楽IV	選択	2・3・4	演習	1	後期	○				○	◎		保育者に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。
素材造形I	選択	2・3・4	演習	2	前期			○			◎	○	造形活動の構想と指導法 I	子どもの発達に関する知識や技術と、素材造形の経験をつきつけ、模擬保育を行う。また、学外の保育現場とも連携し、各自のアイデアを実際に発表する機会を持ち、ふりかえりを行い、保育実践力を高めていく。	・1回生で学んだ「素材」と「こども（保育・幼児教育）」を結びつけ実践することで、造形活動を構想する力を養う。 ・造形活動を実施する際の指導法を身につける。
素材造形II	選択	2・3・4	演習	2	前期			○		○	◎		自然と素材	自然に触れる中で、見る・感じる・気づくことを促し、各自の発見から具体的な保育実践を構想する。またPCの活用や、プレゼンテーションの力を身につける。	・自然や自然物に対する理解を進め、保育の環境や状況に応じた素材の選択と、素材の特性を生かした運用法を身につける。 ・PC操作法の理解を進め、適切な運用とプレゼンテーション技術を習得する。
素材造形III	選択	2・3・4	演習	2	後期			○			◎	○	造形活動の構想と指導法 II	素材の応用的な活用、表現、造形活動への展開を探求し、保育計画を作成する。また、学外の保育所等で、実際に実践を行い、ふりかえりを行う。	・1回生で学んだ「素材」と「こども（保育・幼児教育）」を結びつけ実践することで、造形活動を構想する力を養う。 ・造形活動を実施する際の指導法を身につける。
素材造形IV	選択	2・3・4	演習	2	後期			○			◎		地域環境と素材	保育実践を念頭に入れ、地域の歴史を調べ、文化や伝統、地域性に触れる。地域の生活に関係の深いさまざまな人とかわり、交流を持つ中から、各自の発見や気づきを得て、子どもへ向けて発表する。	・文献調査、フィールドワーク、インタビューなどの調査能力を身につける中で自主的な学習態度を形成する。 ・地域環境を生かした保育を構想する力を養う。
保育内容V(表現I)	必修	2・3・4	演習	2	後期					△	○	◎	感じる・考える・表現する	幼児の心情、認識、思考等を視野に入れた保育構想(情報機器及び教材の活用を含む)の重要性を理解し、幼児の豊かな感性、表現する力や創造性を育むため、さまざまな素材にふれ、発達過程に応じた具体的な指導案を作成し、模擬保育を行う。また、ふりかえりを行い、指導法を改善する視点を身につける。	幼児の豊かな感性、表現する力や創造性を育むため、さまざまな素材にふれ、発達過程に応じた具体的な保育を想定した指導法を身につけて保育実践力を高める。
乳児保育 I	選択	2・3・4	講義	2	前期	◎	○			△			乳児保育の意義・目的	3歳未満児の保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し、合わせて、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学ぶ。発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制、職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携、協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
乳児保育 II	選択	2・3・4	演習	2	後期	◎	○			△			乳児の発育・発達と理解と関わり	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりを基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や遊びと保育の方法、技術、環境や、必要な配慮の実践について具体的に理解する。これらを踏まえ、乳児保育計画の作成について、具体的に理解する。	1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりを基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法、技術、環境や、必要な配慮の実践について具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
こどもの食と栄養	選択	2・3・4	演習	2	前期	◎	○			△			小児栄養の意義と基礎的理解	私たちが一生健康で豊かな生活を送るためには、バランスのとれた食習慣の確立が大変重要となってきます。一生のうちでも乳児期や幼児期は、最も成長、発達の盛んな時期であり、しかもこの時期からの正しい食習慣が将来の健康に良い影響を与えるといわれています。そのような大切な「食」についての理解を深めてもらい、しいては自分自身の食生活の確立にも役立ててもらいたいと思います。また、毎授業で保育士国家試験の過去問題に取り組みます。	保育の中で、子どもたちに「食事の大切さ」「食のおもしろさ」を伝えることができるようになる。
保育内容III(環境)	必修	2・3・4	演習	2	前期	◎	○			△			子どもの知的好奇心や科学の芽を育てる環境	幼児教育の基本と領域「環境」のわらわら及び内容を理解して、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を身につける。	幼児が遊びの中で身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う保育を行えるようになる。
保育内容総論	必修	2・3・4	演習	2	後期	◎	○			△			保育内容について総合的に学ぶ	保育内容の理解を深め、幼稚園教育要領に示されている5領域の成り立ちとその意味を学び、各領域の意義を理解する。また、保育現場の状況を具体的にイメージしながら保育内容を理解できるようにするため、実践事例を折り返しながら学習していく。	保育内容の意義について十分に理解するとともに、幼児理解や保育方法について、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえて総合的にとらえる視点を養い、指導案を作成し模擬保育を行い、具体的な保育実践力を身につけることを目標とする。
保育インターンシップ	選択	2・3・4	演習	2	前期	○	○	◎	○				就業体験	実際の教育・保育現場を体験し、保育者の仕事内容を知る。また、子どもと関わる中で子ども理解を深めよう。インターンシップを通して自分の意外な適性に気づくこともあり、自分の方向性を決めつけずに素直な気持ちで取り組みましょう。	1～4回にかけては、学内で事前のガイダンスと研修を実施することで、インターンシップの意義・目的についての理解を深める。教育・保育現場での体験(実働3日間)を通じて、保育者として働く意味と厳しさ、楽しさを体感する。自己の職業適性や将来設計について考える機会をもつ。12～15回では、実習終了後の体験レポートを作成し報告会を行うことで、インターンシップの成果と課題を認識する。
こどもとあそび	選択	2・3・4	演習	2	前期	○		○				◎	子どもの遊び 実践と指導法	子どもにとって遊びは、どのような意味があるのか、保育専門職は、子どもたちの遊びをどのように理解する必要があるのか、具体的な遊びを知り、実際に模擬保育を行い、遊びの意味と効果を考察する。	さまざまなジャンルの子どもの遊びを経験しながら、自分なりに理解し、遊びのリーダーの技量を身につける
こどもの健康と安全	選択	2・3・4	演習	2	後期	◎	○			△			子どもの健康と安全についての理解	保健的観点を踏まえ、保育環境や子どもの体調不良等に対する適切な援助について理解する。関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、衛生管理、事故防止、感染症対策、安全対策・危機管理、災害対策等について理解し、発症や状態等に即した適切な対応を行う。健康と安全に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する。	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づき、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。
こども家庭支援の心理学	選択	2・3・4	講義	2	前期	◎	○			△			子どもの発達の観点からの理解	乳児期から老年期に至る生涯発達の知見を得て、家族、家庭、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉え、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。また、子どもの成長環境、精神保健とその課題について理解する。	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。
実習指導・施設I	選択	2・3・4	演習	2	後期	◎	○			△			施設実習に向けた事前学習	居住型の児童福祉施設等での実習を前に、施設の実態や利用児童の理解を深める。	施設実習の専門性と役割について学ぶ。
施設実習I	選択	2・3・4	演習	2	後期		△	◎	○				居住型児童福祉施設等での実習	居住型児童福祉施設等での実習を通して、子どもへの理解を深め、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶ。	1. 居住型児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
社会福祉	選択	3・4	講義	2	前期	◎	○			△			保育士になるために必要な社会福祉論	現代社会における社会福祉の意義、理念について学ぶ。また社会福祉に関する法制度や福祉サービス、社会福祉援助の実態について学ぶ。そして社会福祉専門職者である保育士に必要な知識の習得を目標とする。障害当事者及び福祉現場の担当者によるゲストの講義の実施、講義内容に応じて視聴覚教材等を使用する。	保育士になるために必要な社会福祉の基本的な事項、動向等を理解し、知識を取得する。
保育内容VI(表現II)	必修	3・4	演習	2	前期					△	○	◎	身体表現・子どもの歌唱指導法	幼児の生活の様々な表現活動を音楽的及び身体的側面から支援する意義と方法について学ぶ。音(楽)あそびや歌唱指導の実践等を通して、発達に応じて乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための方法(情報機器及び教材の活用を含む)を学ぶ。	1) 領域(表現)に含まれる様々な音(楽)的及び身体的表現とその意義について理解する。 2) 音(楽)的及び身体的表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法および援助方法を理解する。
こども家庭支援論	選択	3・4	講義	2	後期	○	◎	△					子育て家庭に対する支援の意義・目的	保育士の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義、目的、具体的な支援体制や社会資源とその活用について理解する。また、今日の子育て家庭の現状や地域のニーズを知り、関係機関との連携を含めた多様な支援の展開と今後の課題について理解する。	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	知識	思考力	行動力	倫理観	発想力	構想力	表現力	テーマ	授業概要	到達目標
こどもと生活	選択	3・4	講義	2	前期	◎			○				生活科の背景と低学年の子どもの特性について	生活科の教育原理を国内外の実践事例とともに学び、グループを編成し、単元及び本時の指導計画の作成、教材研究、模擬授業等を実施する。最終的に現場教員に求められる生活科の授業実践の力量を身につけることができるようにする。	生活科の背景と低学年の子どもの特性について理解し関心をもつこと、そして生活科の年間指導計画と単元指導計画を作成できるようになることを目的とする。
こども芸術演習I	選択	3・4	演習	4	前期			○		○	○	◎	子どもの「学び」と「遊び」をデザインする	1-2回生の造形授業で学んだ導入、素材研究、発想・構想、制作・発表までの一連のプロセスを再度段階を踏みながら体験し、これまでもより長い期間でのマネジメントを学ぶ。また、展示会の会場構成や広報、設営・準備などを新たに学んでいく。	・子どもの「学び」と「遊び」をデザインする実践力を高める。 ・造形活動にかかる時間配分や、仕事量見極めなどの実践的なマネジメント能力を養う。
こども芸術演習II	選択	3・4	演習	4	後期		○	○	○			◎	子どもの「学び」と「遊び」をデザインする	「保育・幼児教育」「こども」「ワークショップ」「デザイン」「芸術」「発達・心理」などを切り口とし、自らの研究テーマを決定する。各々の気づきのプロセスを大切にしながら、主体的な実践・研究を進める。	・実際に保育・教育に関する調査研究をおこない、発表から実施までの一連の流れを知ることができる。 ・自主的な学習態度を形成し、保育・教育実践に関する課題を自ら発見し、解決していきける能力を身に付けることができる。
教育相談	選択	3・4	講義	2	前期	◎	○		△				教育相談の基本的知識、技術を学ぶ	教育相談は、幼児が教師との信頼関係を深め、他児と好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支える教育活動である。本講義では、カウンセリング、ソーシャルワーク等の知見を生かしながら、幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。	○学校(幼稚園)における教育相談の意義と理論を理解することができる。 ○教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄等)を理解することができる。 ○教育相談の具体的な進め方、組織的なチーム援助や専門機関との連携等の必要性を理解することができる。
教職概論	必修	3・4	講義	2	後期		◎		○				教員の役割や資質についての理解を深める	本授業は、確かな「教職マインド」の獲得に向けた5つの学習領域(1)教職の魅力のありか(2)公教育のなかの教育職員、(3)教師の仕事と資質・能力、(4)教員の職務内容、(5)チーム学校の創造、から成っている。いずれも教師としてのアイデンティティを培う重要な学びの視点である。	公教育のなかの教育職員としての、豊かな知識と「教職マインド」を身につける。
教育制度論(幼稚園)	必修	3・4	講義	2	前期	◎	○		△				幼稚園制度に関する歴史と教育について	学校制度に関する基本的知識(主に幼稚園)に関して、文化社会的及び歴史的アプローチから理解する。	現代の教育制度の基礎知識をつかみ、地域のつながりや学校安全の重要性を理解する。
教育方法の理論と実践	必修	3・4	講義	2	前期		◎		△			○	教育の方法・技術に関する基礎的理解	本授業では、教育方法の基礎的な内容である「授業づくりと学級づくり」および「特別活動の実践」を理解し、「伝達の方法」と「対話の方法」についての理論と実践を学ぶ。そのうえで、学習評価、板書、実物提示、学習指導案づくりの手順、および情報機器の活用による教材の作成・提示の理論と技術、および情報モラルについての理解を深める。	教育方法の多様な理論と技術について理解し、その実践への意欲を培う
実習指導・保育所I	選択	3・4	演習	2	前期	◎	○		△				保育所実習Iの事前事後指導	学外実習(保育所)に向けて、実習の意義や目的、実習に対する心構えや遵守すべき事項について学ぶ。また実習記録や指導案の基本を学ぶ。	保育所の役割や機能を理解し、実習への明確な目的をもつことができる。保育所実習Iに向けて記録・指導案の書き方や教材理解の基本を身につけることができる。
保育所実習I	選択	3・4	演習	2	前期		○	◎	○				保育の実践と子ども理解	保育所の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。
実習指導・保育所II	選択	3・4	演習	2	後期		◎	○	△			○	保育所実習IIの事前事後指導	学外実習(保育所)に向けて、実習の意義や目的、実習に対する心構えや遵守すべき事項を理解する。また実習記録や指導案の書き方への理解を深める。模擬保育を通して子ども、保育への理解を深め保育実践力を培う。保育所・保護者・地域の連携における保育士の職務を理解する。	保育所実習IIの意義・目的・実習生として遵守すべき事項について理解を深め、明確な目的をもつ。指導案を作成し、指導案にもとづいたあそび(活動)の実践を体験的に理解することができる。保育所実習IIに向けて保育所の機能や役割(保護者支援や倫理綱領)を理解することができる。
保育所実習II	選択	3・4	演習	2	後期		◎	△				○	地域社会における保育所の役割と子育て支援	保育所実習を通して、広い意味で地域における保育所の役割や、子育て支援について関心を持って通す。また、保育課程、保育指導計画の理解の上に立って、1日の保育指導計画立案を作成し、計画とあわせて実践的に保育の方法を学ぶ。自己評価、反省は必ず行ない、その上に立って、保育の再構築をする。	こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から保育課題を明らかにする。同時に保育所の社会的役割について積極的に考察を深める。
実習指導・施設II	選択	3・4	演習	2	後期		○	○	○				施設実習の事前事後指導	児童福祉施設等での実習を前に、施設の理解や利用児者の理解を深める。	施設保育士の専門性と役割について学ぶ。
施設実習II	選択	3・4	演習	2	後期		○	○	○				児童福祉施設等における実習	児童福祉施設等での実習を通して、利用児者や家族への理解について学びを深め、児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶと共に体験的に利用児者のかかわりを深め実践力を身につける。	1 施設実習を体験することで、利用児者への理解を深め、実践的に学びを深める。 2 対人援助職の倫理と専門性を学ぶ。
教育実習指導	選択	3・4	講義	2	後期	◎		○	○				幼稚園実習の事前事後指導	・幼稚園現場において実際に携わることにあたって、責任ある立場で子どもと接すると教員とはどう違うのか学ぶ。 ・実習に必要な知識や技術を学び、実際に実習でその学びを発揮できるよう準備をする。 ・それぞれが実習に対する学習課題を明確化する。 ・実習経験をふまえて、今後の学習及び制作への意識を高める。	幼稚園実習で十分な成果を納められるように、学びのプロセスを大切に準備する。また実習の終了後には、それぞれが現場で経験したことを整理し、全員で確認することで今後の学びや制作につなげていく。
教育実習I	選択	3・4	演習	2	後期		○	◎	△			○	幼稚園での保育の実践と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。
子育て支援	選択	4	演習	2	前期	◎	○		△				子育て支援内容の方法及び技術	保育士の行う子育て支援の専門性を背景とした保護者に対する相談、援助、情報提供等の具体的な支援を学ぶ。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援内容と方法及び技術について、具体的な実践事例等を通して理解する。	1 保育士の行う子育て支援の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。
教育実習II	選択	4	演習	2	前期		◎	○	○			○	幼稚園での保育の実践と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。
保育・教職実践演習(幼稚園)	選択	4	演習	2	後期		○	◎				△	保育者としての能力、実践力を養う	保育・教職課程の学びや保育・学校現場での体験や実習を振り返りながら、保育者になる上での自己の課題を明確にする。また、本演習を通して教員として実践力と指導力を高める。	①保育者としての高い倫理観と規範意識を習得する。 ②保育者としての職責や義務の自覚に基づき、高い社会性や対人関係能力を身に付ける。 ③子どもの発達や心身の状況を理解し、保育・学級経営を円滑に進める力を身に付ける。 ④教科に関する指導力を身に付ける。
こども芸術演習III	選択	4	演習	4	前期		○			○	◎		卒業研究・制作を行う	各自のテーマを設定し、主体的な実践と研究を行う。また、卒業制作展覧会に向けたグループワークにも、同時並行して取り組む。	・自己の目標に向かって研究・制作する向上心と持久力を身につける。 ・自分らしい専門性を身につけ、社会で活躍する実践的な能力を身につける。
卒業研究・制作	必修	4	演習	4	後期		○					◎	卒業研究・制作を行う	各自のテーマを設定し、主体的な実践と研究を行う。また、卒業制作展覧会に向けたグループワークにも、同時並行して取り組む。	・自己の目標に向かって研究・制作する向上心と持久力を身につける。 ・自分らしい専門性を身につけ、社会で活躍する実践的な能力を身につける。